

第2回お城を中心としたまちづくり懇話会（概要）

日時：平成20年10月7日（火）

午後1時30分～午後4時30分

場所：プラザおでって 3階おでってホール

- 開会
- 都市整備部長挨拶
- 座長挨拶

座長：お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。2ヵ月半くらい前でしょうか、第一回ということで、いろいろなご意見をいただきました。盛岡のまち、あるいはお城に対する深い想い、と同時に、いろいろな洞察がありまして、たくさんの議論をいただいたかと思います。ただ、やはり、想いもたくさんありまして、時間的に制限がある中で、もう少し突っ込む必要があるのではないかと感じているところです。その辺につきまして、後程、多分、事務局から説明があるかと思いますが、まとめていただいたものをもとに、今日更に議論できればと思います。今、都市整備部長さんの方からも話がありましたけれども、お城って、全国を見ましても、お城のあるまち、お城そのもの、いろいろな魅力と同時に、いろいろな意味での重要性・意義を持って良いのではないかなと思います。その辺のことを柔軟にこの会で揉みつつ、一方で、単に精神論あるいは理念だけでなく、「具体的にやる」という実践の形にまで、少しでも近づけたらなと思います。その際、従来、行政・企業・市民、いろいろな形・役割があったかと思いますが、あるところだけではできないようなところを、この辺から、ある部分・ある人たちがバックアップできるというような、そういった協力体制のもとに、より具体性ある実現方向に行けたら感じるところです。短い時間ではありますけれども、有意義なひと時になるよう、よろしくお願いいたします。

- 第1回懇話会に欠席した委員の紹介、あいさつ
- 欠席者の確認
- 前回の懇談概要の報告
- 事業計画（素案）の説明（資料参照）
- 懇談内容

座長：説明していただいた素案を題材に、いろいろ持っていければと思います。

事前に配布されたA3版の資料、既にお目通しいただいているだろうが、これに、施設・公園の部分と、お城周辺の部分についてまとめられています。かなりいろいろな項目がたくさんありますが、どうしても、議論が一箇所に集約してしまいがちとなります。時間も回数も限られているので、なるべくメリハリを利かせつつ、全体を見渡して議論・コメントをいただければと思うところであります。先日、事務局の方と相談し、全100分の意見交換の時間を、三段階に分け議論をしていくことにしました。最初は、史跡・公園エリア。お手元のA3資料では、1枚目になる。中盤は、お城周辺エリア。いろいろな内容のコメントをいただければと思います。その中でも特に、第1回でも議論になった、桜山参道地区。これについては、ほかと一緒にするには、ややボリュームのある議論ではないかと思うところです。そこで、桜山参道地区については、最後の3分の1を充て、大まかに、前半40分程で史跡・公園、中盤30分程でお城周辺、最後の30分程で桜山参道地区についての議論・コメントをいただければと思います。満遍なくできれば意見をいただきたいところですが、一方で、皆さんそれなりに想いをたくさんお持ちかと思えます。その中で、広く多くの内容を取っていただき、できれば、おひとり1分程度で簡潔にまとめつつ、いろいろなご意見をいただければと思います。それに関して、もちろん、反対の方も当然いらっしゃると思うし、いろいろな意見もあると思いますので、議論を掘り下げるといよりも、今回は、「より広く浅く」というような第2回になればと思います。進行について、質問はありますか。では、早速始めさせていただきますが、本日ご欠席の委員よりコメントをいただいているので、そのまま読ませていただこうと思います。「お城を中心としたまちづくり、まちの賑わいを含み、活性化のためには、東大通商店街（桜山神社前）が必要不可欠です。ぜひとも、法律上の制約を見直し、市民に親しまれる憩いの場として存続できるようにしていただきたいと思えます。また、できることならば、この会で統一見解を示すことが望ましいと思えます。ご検討いただければ幸いです」。恐らく、先程言った最後のあたりの議論になるのだと思います。その辺のご意見と同時に、この会としてひとつの統一見解、今日まとまるわけではないでしょうか、最終的には、そんな統一見解が出れば良いかなと思っています。

1. 城下町のシンボルとなる公園づくり

◎史跡

都市整備部長：現在行っているソフト事業や史跡の意味など、現在の状況をしっか

りと結びつけ、情報発信を積極的に行っていくべきではないか。

- 座長：情報発信だけでなく、情報を吸収する仕組みも必要ではないか。
- 委員：彦御蔵についてです。彦御蔵が全然使われていなくて、「何だろう」と興味を持っている方も多いと思うので、演劇とか、昔話を子どもたちにするとか、中を見せると同時に、歴史的なところを伝えるとか、写真展とか、そういう使い方をできると、興味を持ちやすいと思います。ただ開けて開放というだけだと、できることもないし、意味もないと思うので。
- 座長：良く分からないですが、そういう所があるのですか。彦御蔵だけが使われていないのでしょうか。
- 委員：彦御蔵が全く活用されていない。写真展・演劇や昔話の読み聞かせなど常設に近い形でイベントを行ってはどうか。
- 委員：市民などからアイデアを取り入れながら活用してみてもどうか。
- 委員：歴史文化施設とリンクした使い方をしてはどうか。テーマをつないでいく。
- 委員：まちづくりにおいて、何をつなげるかが重要。人と人、お金、事業、人とお城。
- 座長：全体を束ねるテーマとして、「つなげる」ということが大事なテーマとなるのではないか。

◎公園

- 教育部長：彦御蔵は消防法の制限で自由に使えない。2階はダメ、1階は常設は厳しい。常設に使うなら、消防法をクリアする改修が必要。一般公開に近い形で仮設展なら大丈夫である。
- 座長：消防法の縛りがあるから、できないのではなく。それを解決するためには、どのような問題を解決していかなければならないのか、また、その結果、可能なのかを検討していく取り組みが必要ではないか。
- 委員：サイン等のデザインは市民による製作で行なってはどうか。「うしろに市民が見える」ような事業展開が必要。
- 都市整備部長：ユニバーサルデザインの観点から、車椅子をサポートするようなボランティアが出てくるようであれば、もっと良くなるのではないか。
- 委員：総合案内所のような施設が必要。イワマ靴店跡地・公園内の広場。ボランティアの待機所や情報発信の中心として活用できる。
- 座長：「あそこに行けばボランティアができる」という、ハード施設の必要性は重要である。
- 委員：「プラザおでって」では、お城を活かした情報発信地としては遠すぎる。歴文化施設ができれば、期待できる機能であるので活用して欲しい。
- 教育部長：(歴史文化施設の概要説明)

◎鶴が池・亀が池

都市整備部長：お堀に関しては、これまで様々な意見をもらってきたが、取り組みとして有効なのは、水の量を増やし、循環させることだと思うので、是非取り組んでいきたい。

2. お城らしい風格のある景観づくり

◎景観計画

都市計画課：(景観計画の概要説明)

座長：先程「見られるお城づくり」という話があったが、その辺についてはいかがか。石垣のこととか、いろいろあったと思うが、このままで良ければこのまま進んでいきたいが。

都市整備部長：中津川側から、お城が認識できない。ヒマラヤシーダだけにこだわらず、樹木の淘汰が必要である。

委員：観光客をお城に誘導するのが難しい。でんでんむしを利用する観光客は、紺屋町→中の橋→（お城が見えないのでやり過ごしてしまう）→県庁市役所前→盛岡駅のルートを利用してしまう。それは、外からお城の存在が見えないからである。

座長：懇話会でどこを切ればいいとは決めるのではなく、「メリハリのある樹木の伐採・育成をやりましょう」という意識は必要。ただし、ある程度整理が必要なのではないか。

委員：ヒマラヤシーダを含め、どこの樹木を切るのではなく、お城がどこにあるかが分かる施設があればいい。

委員：観光客にとって、どこにお城があり、どこから見た石垣がきれいなのか分からないのではないか。観光客の視点からの石垣やお城を考えてみてはどうか。

座長：お城を中心とした植栽計画や情報計画を策すれば良い。

座長：今、計画をしっかりと決めていくのではなく、育てていけばいいのではないか。

3. 歴史文化遺産の継承と学びの拠点づくり

◎歴史文化施設

委員：歴史文化施設の整備あわせて、春ごろから、樹木の伐採や間引きが行なわれているが、手をかけることで、公園全体が見えてきて雰囲気が変わった。明るくなった。3年後はもっと変わるような気がする。

教育部長：(歴史文化施設の概要を説明)

委員：歴史文化施設を連動させてまちづくりを行なって欲しい。

委員：歴史文化施設に人が集まってくるのならば、駐車場の整備が必要ではないか。

教育部長：歴史施設内に大型バスを誘導するために一部一方通行の解除について警察と協議中である。大通りの一方通行を逆にして、でんでんむしを通せば、効果がでるかもしれない。

委員：確かに大通りの一方通行を逆にし、駅→大通り→中の橋のルートででんでんむしを通すことで、観光客などを、効果的に公共交通を利用して、お城に誘導できると思う。

委員：石割桜周辺に駐車スペースがあれば、春には公園まで観光客などを誘導できる。車で来るなどはいえないので、最低限のスペースを確保するのは良いのでは。

委員：桜山地区の半分を駐車場にすれば良い。

委員：桜山地区の駐車場の件については反対である。例えばだが、泉幼稚園のところに観光バス駐車場があれば良いのでは。

教育部長：(既存の観光バスが利用できる駐車場の位置の説明)

委員：上の橋にもあるが、なかなか不便で、皆行きたがらない。

都市整備部長：公園地下駐車場の活用が必要である。例えば、観光客の利用者にインセンティブを与えるなどの工夫が必要なのでは。

公園みどり課：歴史文化施設の前庭整備に関しては、JTB側からの開放性と中津川側に開けた公園整備を行なって行きたい。

委員：歴史施設前庭整備とあわせて、駐車場の活用を検討してみてもどうか。

委員：歴史文化施設内に、郷土芸能を楽しめる常設の体験施設を設置して欲しい。他都市でも、事例（阿波踊りなど）があることから有効的である。

座長：事業に対するアウトプットに固執するのではなく、周りが変わっていくことに対応するためには、市民との協働などにより、動きのある計画づくりが必要ではないか。計画ができたから、変えられないのではなく、少しずつ変えられる余地を常に意識することが必要である。

座長：歴史施設の増築部分を含め、スペースがあれば、盛岡の郷土芸能などを伝える良い場（機会）になるのではないか。そうすることで、さんさ踊りの期間だけでなく、全国の人が盛岡に触れられるのではないか。

委員：全般的に施設に入りやすい環境を整備して欲しい。例えば、地下駐車場の入口が分かりづらく、利用しづらい(右折しなければならぬ)、また、サインもないので、改善してもらえれば利用しやすくなるのではないか。

◎市民協働

座長：人が気軽に集い、担い手が育ち、情報発信ができる、ちょっとした休憩施設が重要な要素となるのではないのか。

4. 地域の魅力を活かし、城下町盛岡の中心となるまちづくり

◎城下町

委員：昔の町名が子供会の名前についていたが、今はどうなのか。

教育部長：今でも、住居表示として残っているものもある。

歴史文化課：旧町名由来板の再整備。歴史資料に基づいて、裏付けの取れる町名などを、今の人たちにわかりやすいような内容で、再整備をおこなう予定である。担当は環境企画課となっている。

委員：キーワードとして「つながる」という話が出てきているが、そういうことから、公園案内板、旧町名由来板など統一したデザインでやるべき。担当がそれぞれ違うと思うが。

都市整備部長：サイン等については、屋外広告物の対象となってくるので、システム的には意匠についてのチェック機能はある。

座長：内部組織の協働・パートナーシップを進めて欲しい。ある意味で、効率化につながるのではないか。

委員：盛岡にちなんだ南部鉄器などを使うのもひとつではないか。

都市整備部長：東大通の市道が公園・史跡を分断させている。車優先で利用されているが、参道優先になるような工夫が必要である。ハード面だけでなく、デザインやソフト面での工夫をしてはどうか。

委員：お城の正面に、総合的な案内看板が必要。また、写真などを立てて、今昔を伝えるのもひとつである。先程言った景観と、同じように考えて良いのか。

5. お城周辺ならでの景観まちづくり

◎景観施策

座長：「お城らしい風格のある景観づくり」と重なるので省略。

6. 共につくる、賑わいのあるまちづくり

◎交流イベント

委員：「映画の街盛岡」推進事業の説明が欲しい。

商工課：（「映画の街盛岡」推進事業の概要説明／映画祭、イラスト・ポスターの掲示。後世に伝えるために、映画館、ロケ地、ゆかりの地などのデータ化を図ろうとしている。）

委員：全国的に「映画館通り」の存在は珍しい。映画を通して、盛岡のまちづくりを考えるのも有効である。

委員：行政・市民・企業とそれぞれの立場があり、それぞれの考え方があ

過去の映画祭のとき、映画館側が興業のあがらない映画は上映しないということもあった。行政・市民・企業とそれぞれの立場があり、それぞれの考え方があがるが、それらをうまくつなげていけるような取り組みを行なっていないと、盛岡の文化としての「映画館通り」にはならないのではないか。

7. 交流人口の誘導と回遊性を高めたまちづくり

◎中津川の利活用

都市整備部長：現在、ビクトリアロードは道路で分断されて部分があるのでつなげていく必要がある。実施は、河川側に下りたり、庁舎敷地内を通したりと導線上はつながっているが。

座長：考え次第では、空間的に切れているけれども、使用方法でつなげていけるような工夫が必要ということですね。

委員：歴史文化施設、中津川、ビクトリアロード、お城、地下駐車場と、ひとつのトータルプランとして「つなげる」ことが重要であり、特に意識すべきことだと思う。JTB側から入り、バスを停めて、そこには駐車場の入口もあって、その反対側は、中津川が開けていて、ビクトリアロードを歩き、そこに川の家があるといった連動感も良いのではないかと。

委員：中の橋下流の河川敷へ下りるスロープをもっと下り易くして、アクセスしやすい水辺空間にしていくべきだ。

委員：以前、中津川河川敷について、ある方が提案したものがあるが、そのようするものもひとつである。

座長：お城と川の連続性を意識すべきということ。

委員：先日、商工会議所婦人会で、盛岡市出身者以外の方が集まり、中津川沿いを散策した。そのとき、まちなかにこのような空間があることにとっても喜んでいました。

座長：自分自身も、中津川のような空間が中心市街地にあるのは、盛岡にとって貴重な財産だと思う。

8. 人々が集い、情緒と賑わいのまちづくり

◎桜山参道地区

座長：桜山地区を考えていくとき、空間のつながりだけでなく、時間（お城の時代、昭和の時代）のつながりも考える必要がある。

委員：神社の所有地の賃貸契約が5年位で切れるので、今後、どうするか話し合いをもっていこうと考えている。

委員：建物の現状は、史跡区域内なので、なかなか建替えられない。改装とか

手を掛けているところもあるが、一部には景観を損ねているところも見られる。耐震確保のための補強工事をしていかなければという状況でもある。契約の時期は5年後だが、店子などの生活設計を考えていくと、この2年くらいで方針を決めていかなければならない。そうすることで不安を少しでも取り除いてあげたいと考えている。

委員：耐震面での危険性は、建物だけでなく、参道の3つの鳥居（大手先側から、100年、80年、70年）にも可能性がある。今度、一度見てもらい、結果によっては撤去する鳥居もあるかもしれない。

公園みどり課：桜山神社の契約が切れる時期に合わせて、土地利用計画を具現化する必要がある。タイミングを逃すと、そのまま今の状態が続く可能性がある。

委員：将来展望を考えた場合、現実的に一歩ずつ考えていかなければならないだろう。市の考え方は「現在ある公園計画のように、何が何でも緑地化しよう」というのではなく、「盛岡市にとって良い方法を皆で考えていきましょう」ということだと感じている。「将来、何十年後かは、こういうところにしたい」というビジョンを皆で作っていくことが必要。桜山参道地区を「お城を中心としたまちづくり計画」の中でどう位置付けていくかが重要である。

委員：人が来れば、商店街も変わってくる。早めに方向性を考えなければならない。

委員：桜山参道地区も、お城同様「周りからどのように見られているか」を意識していかなければならない。

委員：市民が桜山参道地区をどのように思っているか知りたい。

委員：桜山地区には個性があると思う。お堀があって、そこにお店が立ち並ぶ。この個性を大事にしていく方法を模索していきたい。桜山の堀の周りに散策路があってもいい。

委員：桜山の一番の個性は「お城の正面」だと考える。それも大事にする個性ではないのか。

委員：桜山地区の現状は、東大通を含め100店舗くらいである。その中で、多くの空き家は3箇所である。最近では、若い世代のオーナーも増えている。桜山商店街は、他の商店街と違って、由緒ある商店街ではなく、戦後の闇市から始まって、外から人が来て、活気を作ってきたところである。盛岡の活気の素である。

座長：由緒＝価値ではなく、価値＝個性でもいいのでないのか。認めるものは認める。

都市整備部長：桜山については、様々なところで議論されたり、関連した中心市街

地活性化基本計画などがでてきたりしていることから、桜山についてどうするのかを考えるのに良い時期である。

委員：老朽化が進んでいる建物については、あと10年くらいは持つかもしれない。10年先、20年先を見据えた取り組みが必要。

委員：今すぐ計画を実施することだけにとられるのではなく、建物の耐震面で10年待てるのならば、10年かけて、しっかりと市民や住民の意見を聞きながら、まちづくりへの取り組みを行い、次の時期にすぐに手が打てるような取り組みが必要なのではないか。

教育部長：史跡の価値は掘らなければ分からないので、史跡地内の全体の埋蔵文化財調査（以下：埋文調査）は避けて通れない。埋文調査→保存管理計画→立替許可の手順は踏まなければならない。

委員：桜山参道地区の史跡の価値はいつの時代のものか。埋文調査は何をするのか。

教育部長：藩政時代の地下遺構の調査。勘定所。

歴史文化課：（勘定所含めた、史跡盛岡城跡の概要説明）

座長：「今の私たちのまちづくり」と「史跡としての価値（藩政時代のまちづくり）」のどちらも大切にしていかなければならない。

歴史文化課：桜山参道地区については、史跡解除は難しいが、今後、どう位置づけていくかが重要である。また、決定に向けてのプロセスも大切である。計画の際には策定委員会を設置し、そこで決めていくことになる。『盛岡城跡保存管理計画』を策定する際に、「盛岡としてどうしたいのか」を決め、その上で、桜山参道地区などを史跡保存管理のランク付けをおこなう、その案を文化庁に提案していくべきである。そのためにも埋文調査が必要となる。

座長：桜山参道地区のまちづくりの方向性としては、次の通りで検討して欲しい。緑地にこだわるのでなく、桜山の将来像がみえてくるような計画を検討していきたい。個性を残して生きたい。お城の正面性を確保したい。

委員：桜山を検討するうえで、現状把握が必要なのでは。空き家率、所有形態、建物の老朽化の状態。また、利用者がどのように思っているのかの実態調査が必要。

委員：文化的なものを調べながら、盛岡市にとって、どのようなエリアであることが良いのか、市民や住民の意見を交えながら、将来象を考えていけば良いのではないか。その方向性を確認さえできれば、様々な問題については、ひとつずつ解決していけば良い。

公園みどり課：桜山参道地区に相応しいような利活用を図りましょうという方向性を示していただければ、法的の制限（都市計画法、都市公園法、文化財

保護法など)の中で可能なことを整理した後、改めて、懇話会に提示していきたい。

座 長：上記の方向でよろしいか。

委 員：桜山神社としても、住人としても、実務面（権利調査、聞き取り調査への協力）など（取り組み）を整理していかなければならない。

委 員：交流文化の獲得に昭和のレトロ感をを使っている事例がある。桜山も活用できると思う。例えば、長屋にして、そこにお店を入れ、ロケ地に利用などというのも良いのでは。

□ まとめ

座 長：全体として、「つなげる」というキーワードが出てきた。人と人、主体、空間的につなげる、神社という意味では歴史的に時代をつなげる、いろいろな意味で、「つなげる」ということが重要なキーワードとなっている。大掛かりな整備計画もだが、ちょっとしたハード整備は、皆でやることで「お城を活かしたまちづくり」が展開してくるのではないかということも、懇話会の場で確認できた。桜山参道地区については、大掛かりな部分ではあるが、一方で、身近なところからやれる、あるいは、この時点で見つめなければならない、歩み出さなければいけない、「身近な問題としてやりましょう」というような確認ができた。

□ 閉会